書式第１２号（法第２８条関係）

令和６年度　活動報告書

令和６年４月１日から令和７年３月31日まで

特定非営利活動法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

1. 事業の成果

A　環境教育の事業

A.1　環境教育プログラム研究開発・実践活動・発信活動

A.1.1　環境教育プログラムの研究開発

- 年間９回開催した環境学習体験会（プログラムづくりワークショップ）を軸に環境教育のプログラムづくりが進められた。内容は以下の通り。

2024年度のワークショップの主な内容					
月日	内容	場所	体験とプログラム教材開発	参加数	スタッフ
4月28日	第1回環境学習体験会	蓮根第二小学校	プログラム「そっとのぞいて見てみよう」の体験・ビオトープの保全活動	15	6
5月26日	第2回環境学習体験会	エコポリスセンター	プログラム「綿から糸を紡ごう」の体験・ビオトープ観察用のビンゴカードづくり	13	8
6月23日	第3回環境学習体験会	エコポリスセンター	プログラム「風となかよし」「水となかよし」の体験	16	4
7月28日	第4回環境学習体験会	エコポリスセンター	プログラム「どんぐりコロコロお山はおおさわぎ」の体験・環境学習1日体験館の準備	15	5
9月22日	第5回環境学習体験会	エコポリスセンター	環境学習1日体験館の準備・トライアル	10	7
10月13日	環境学習1日体験館	エコポリスセンター	体験ブース等の運営		
11月24日	第6回環境学習体験会	エコポリスセンター	環境学習1日体験館の振り返り・新規プログラム開発に向けた話し合い	7	4
1月26日	第7回環境学習体験会	エコポリスセンター	プログラム「ちりめんモンスター」の体験・新規プログラムづくり	15	6
2月23日	第8回環境学習体験会	エコポリスセンター	新規プログラムづくり	18	6
3月24日	第9回環境学習体験会	見次公園集会所	新規プログラムの発表	12	6
				121	52

環境学習体験会では、既存の環境学習プログラムや新たに作成した「ちりめんモンスター」の紹介、環境学習１日体験館の準備や振り返り、新規プログラムづくりに向けた話し合い等をワークショップ形式で実施した。計９回の活動に173人（うちスタッフ52人）が参加し、活発な議論が行われた。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	**2024**
回数	-	-	-	-	-	-	-	7	8	6	8	7	6	9	9	9	8	**9**
参加者数	-	-	-	-	-	-	-	74	82	74	166	101	82	152	146	132	106	**173**
1回あたり	-	-	-	-	-	-	-	10.6	10.3	12.3	20.8	14.4	13.7	16.9	16.2	14.7	13.3	**19.2**

本活動に継続的に参加した東京家政大学宮地ゼミの学生などが環境学習 1 日体験館の体験ブースの責任者を担い、事前の企画や当日の運営に大きく寄与した。また、12

月以降に行った新規プログラムづくりの活動では、3 つのグループに分かれ、「ちりめんモンスター」の導入教材づくり、「どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ」のどんぐりを用いた新たな体験活動づくり、新規プログラム「箸をつくろう」のプログラム・教材づくりを進めることができた。

- 継続して行っている環境学習プログラム研究会は、臨機応変に実施できるプログラム開発の場となっており、今年度は周年冊子の検討や地球環境基金の助成事業である「ビオトープがつなぐ板橋の自然プロジェクト」に関する検討等も行った。内容は以下の通り。

2024年度の研究会の主な内容				
月日	内容	場所	主な検討内容	参加数
7月20日	第1回研究会	エコポリスセンター	ビオトープ学習会に向けた検討	5
8月3日	第2回研究会	エコポリスセンター	「ビオトープをつくろう」の検討	4
8月31日	第3回研究会	エコポリスセンター	「ちりめんモンスター」の検討	4
11月16日	第4回研究会	エコポリスセンター	「ビオトープをつくろう」の検討	4
12月21日	第5回研究会	エコポリスセンター	周年記念冊子の作成に向けた検討・「ビオトープをつくろう」の検討	7
3月30日	第6回研究会	エコポリスセンター	周年記念冊子の作成に向けた検討	5
				29

計 6 回の活動に 29 人が参加した。今後、現役の教員などの参加が増える活動へと推移させていきたい。

- 保育園向けプログラム開発は、出張授業数の増加にあわせた洗練化が主となった。保育園で主に行っているプログラム及びプログラムと関連付けて実施するアクティビティは以下の通り。

※オリジナル紙芝居を利用した活動

		自然体験活動分野	食と暮らし分野	自然エネルギー分野（地球環境問題含む）
保育園 幼稚園	プログラム	いも虫のたからぶくろ ※ はらっぱのかくれんぼ大会 ※ どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ ※ 木の精キロリのひみつのいのり ※ 森と子どものひみつ作戦 ※ （木の表情ってどんなだろ） 花と葉っぱでファッションショー	大豆ってすごいぞ ※ 綿を育てよう 綿から人形を作ろう 土のこびと ※	風となかよし※ お日様となかよし※ （鏡で光を反射させよう） 水となかよし（幼児編）
	アクティビティ	キロリのおにごっこ コウモリとガ 落ち葉じゃんけん 音いくつ 同じものはどこにある		

- 小中学校でのプログラム開発は、研究会でのプログラム検討が主となった。小中学校で行っているプログラムは以下の通り。

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>自然体験活動分野</th><th>食と暮らし分野</th><th>自然エネルギー分野（地球環境問題含む）</th></tr>
<tr><td rowspan="4">小学校</td><td>低</td><td>季節の自然で遊ぼう</td><td>コンポストをつくろう</td><td>風となかよし
お日様となかよし
（鏡で光を反射させよう）</td></tr>
<tr><td>中</td><td>好きな色はどこにある
そっとのぞいて見てみよう
学校の木を決めよう
ヤゴ救出大作戦
チョウを育てよう
ちりめんモンスター</td><td>大豆ってすごいぞ
学校産のとうふを作ろう
手前みそを作ろう
綿を育てよう
綿から糸を紡ごう
箸をつくろう
地球温暖化を知ろう</td><td>風となかよし
（風力発電機をつくろう）
お日さまとなかよし
水となかよし</td></tr>
<tr><td>高</td><td>わたしの木・ぼくの木
ビオトープをつくろう</td><td>食べものはどこから
ペットボトルの水
食品ロスを減らそう
プラスチックごみを減らそう</td><td>放射線から身体を守る生活の仕方
エネルギー源を考える</td></tr>
<tr><td colspan="4">分野横断型プログラム
（まちづくり）住み続けたい板橋のまちを考えよう　50年後の板橋を考えよう
（キャリア教育）環境キャリアを考えよう</td></tr>
<tr><td colspan="2">中学校</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

海の中にいる生き物の魅力を知る「ちりめんモンスター」と、木材の特徴などを学び木から箸をつくる体験をする「箸をつくろう」のプログラム化を進めることができた。

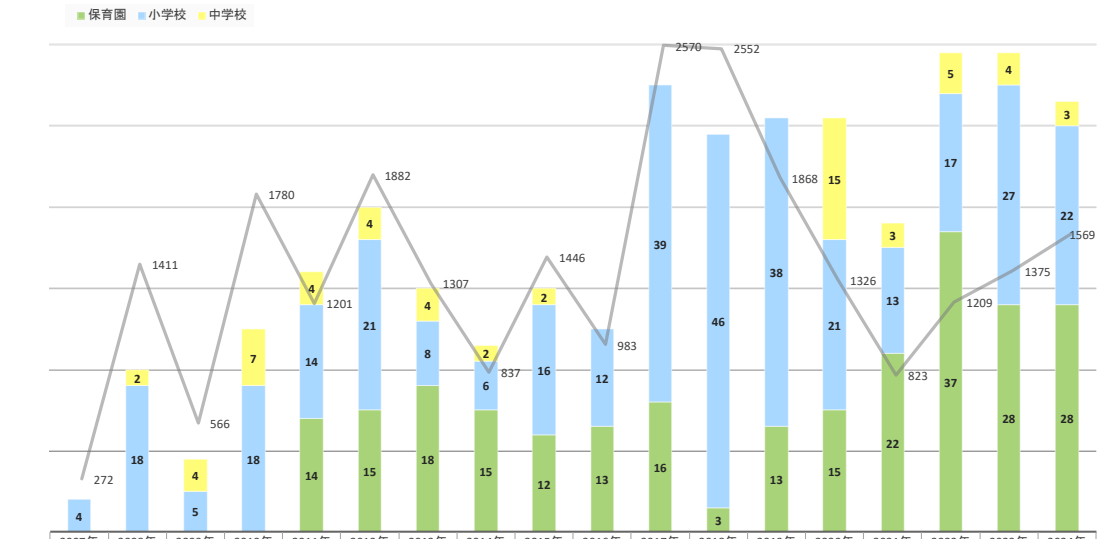
A.1.2　環境教育プログラムの発信活動

- 周年記念冊子「環境学習実践ブック　～自然への感動を通して、いのちを見つめる～」の 2025 年度の発行に向けて、環境教育プログラム研究会などの機会に検討を行った。
- 2015 年に出版した「みんなワクワク　どんどん使える　センスオブアースの環境教育実践集」の販売に関しては課題が残った。
- HP 版プログラムバンクを適宜更新した。
- 環境教育プログラムに関して、一昨年度の 3 月に発行した資料をもとに広報を進めた。

A.1.3　環境教育プログラムの実践活動

- 31 の保育園・小学校・中学校で、年間 53 回（うち 1 回があいキッズ、1 回が部活動）の出張授業を実施した。1,569 人（うち 18 人があいキッズ、16 人が部活動）の園児・児童・生徒に環境教育の機会を提供することができた。この結果、これまでの累計で、653 回の授業を実施し、その対象人数は 24,977 人となった。昨年度と比較し、回数はやや減少、人数は増加となった。

  2017 年度から始まったエコポリスセンターからの委託事業により、上記 53 回のうち 49 回がエコポリスセンターとの協働であった。

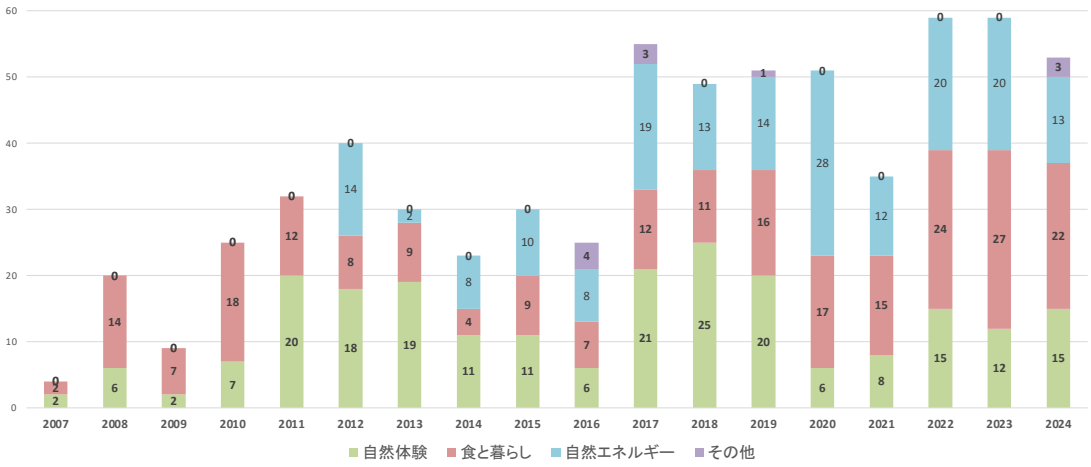


	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
中学校		2	4	7	4	4	4	2	2					15	3	5	4	3
小学校	4	18	5	18	14	21	8	6	16	12	39	46	38	21	13	17	27	22
保育園					14	15	18	15	12	13	16	3	13	15	22	37	28	28

プログラムの内訳では、食と暮らし分野の「大豆ってすごいぞ」と大豆栽培後の「学校産のとうふを作ろう」など、タネから育てて作るプログラムが幅広く受け入れられる傾向が続いている。

自然エネルギー分野（地球温暖化などの地球環境問題含む）では保育園での「水となかよし（幼児編）」が楽しい活動として人気を集めた。「風となかよし」も継続して人気であった。

自然体験活動分野に関しては「季節の自然を感じよう」のほか「そっとのぞいてみてみよう」「学校の木を決めよう」なども実践がした。「どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ」「葉っぱや花でファッションショー」などの造形活動を伴う活動も含め、自然との親しみを深める自然観察の活動などはやや上昇の兆しを見せている。



- 保育園・幼稚園（同年代を対象とした私立学校を含む）における取り組みは、22 園で計 28 回に及び、その対象者数は 603 人となった。保育園・幼稚園での実践の内訳は以下の通り。

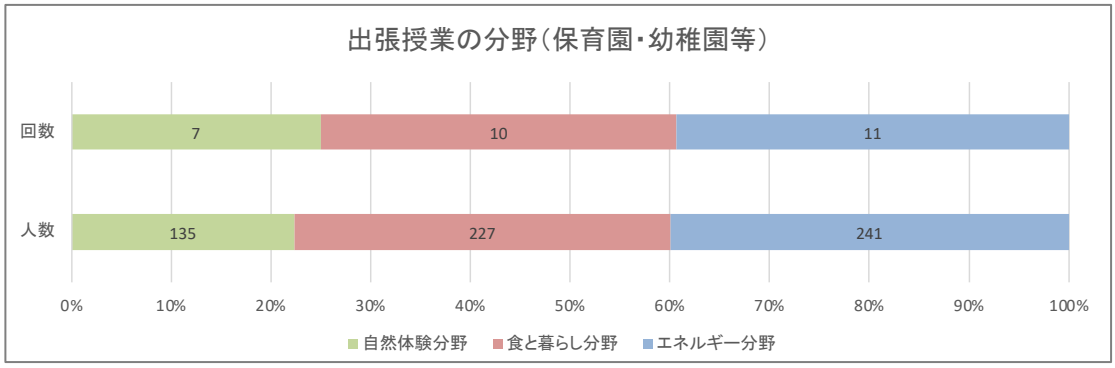
日付	保育園・幼稚園名	対象（人数）	プログラム名	備考
04月25日	ほっぺるランド大谷口	4歳児（13人）	風となかよし	
05月09日	ほっぺるランド大谷口	5歳児（16人）	大豆ってすごいぞ	
05月14日	板橋区立赤塚保育園	5歳児（16人）	土の小人	
05月16日	板橋区立小桜保育園	4・5歳児（27人）	土の小人	
05月22日	板橋区立大谷口保育園	5歳児（21人）	水となかよし（幼児編）	
05月30日	ほっぺるランド成増	5歳児（13人）	大豆ってすごいぞ	
06月04日	同援みどり保育園	5歳児（24人）	大豆ってすごいぞ	
06月06日	ほっぺるランド大谷口	3歳児（17人）	いも虫のたからぶくろ	
06月11日	ほっぺるランド成増	5歳児（14人）	綿を育てよう	
06月13日	板橋区立東新保育園	4・5歳児（35人）	風となかよし	
06月19日	つつじ保育園	4・5歳児（36人）	綿を育てよう	
06月21日	つつじ保育園	4・5歳児（38人）	大豆ってすごいぞ	
06月24日	ほっぺるランド志村坂上	2歳児（16人）	葉っぱや花でファッションショー	
06月30日	板橋区立紅梅保育園	5歳児（24人）	水となかよし（幼児編）	
07月04日	ソラストときわ台保育園	4・5歳児（22人）	水となかよし（幼児編）	
07月08日	ほっぺるランド板橋小豆沢	5歳児（8人）	水となかよし（幼児編）	
07月17日	キッズタウンむかいはら保育園	5歳児（24人）	水となかよし（幼児編）	
07月23日	ほっぺるランド本蓮沼	4・5歳児（32人）	風となかよし	
07月26日	ひまわりキッズガーデン大原	4・5歳児（12人）	土の小人	
09月09日	旭保育園	5歳児（16人）	水となかよし（幼児編）	
09月24日	旭保育園	4歳児（15人）	いも虫のたからぶくろ	
11月20日	板橋区立高島平さつき保育園	4・5歳児（27人）	どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ	
11月15日	こぶし保育園	5歳児（27人）	水となかよし（幼児編）	
01月16日	はぁもにぃ保育園	3～5歳児（31人）	学校産のとうふをつくろう	
02月25日	メリーポピンズ 成増ルーム	5歳児（12人）	葉っぱや花でファッションショー	
03月13日	まきば幼稚園	4歳児（19人）	いも虫のたからぶくろ	
03月14日	つつじ保育園	ツバメ組（19人）	風となかよし	
03月18日	まるやま保育園	4・5歳児（29人）	木の表情ってどんなだろう	

プログラムの内訳では、今年度も実施分野が多岐に渡った。

自然エネルギー分野では、「水となかよし（幼児編）」が 7 回と最も多く実施され、続いて「風となかよし」が 4 回の合計 11 回の授業を実施した。

食と暮らし分野では「綿を育てよう」「大豆ってすごいぞ」の栽培に向けたプログラムと、大豆を育てた後の「学校産のとうふをつくろう」で合計 7 回の授業を行ったほか、堆肥づくりの活動である「土の小人」が 3 回、合計 10 回の授業を行なった。

自然体験活動分野では、「いも虫のたからぶくろ」といった自然と直に親しむ活動が 3 回、「どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ」「葉っぱや花でファッションショー」「木の表情ってどんなだろう」の造形活動があわせて 4 回、合計 7 回の授業を行なった。



保育園・幼稚園等では、8 園（区立保育園 2 園・私立保育園 5 園・私立幼稚園 1 園）で新たな実践を行った。その結果、対象となった保育園・幼稚園は 22 園（区立保育園 6 園・私立保育園 15 園・私立幼稚園 1 園）であった。区立保育園・区立幼稚園全 40 園に対して、これまでの活動を総合すると、38 園で授業を実践しており、その広がりは 95%に至っている。

相生	赤塚	赤塚新町	あさひが丘	大谷口	かないくぼ
上板橋	紅梅	小桜	さかうえ	坂下三丁目	志村橋
新河岸	高島平あやめ	高島平くるみ	高島平けやき	高島平さつき	高島平すみれ
高島平つくし	高島平つぼみ	高島平もみじ	東新	ときわ台	中板橋
西台	西前野	蓮根	緑が丘	みなみ	南前野
向台	向原	弥生	ゆりの木	若木	高島幼稚園

2024年度 実施	2024年度 新規開拓	過去の実施

※ 2024 年度実施の ほっぺるランド大谷口・ほっぺるランド成増・同援みどり保育園・つつじ保育園・ほっぺるランド志村坂上・ソラストときわ台保育園・ほっぺるランド板橋小豆沢・キッズタウンむかいはら保育園・ほっぺるランド本蓮沼・ひまわりキッズガーデン大原・旭保育園・こぶし保育園・はぁもにぃ保育園・メリーポピンズ成増ルーム・まるやま保育園は私立保育園（公設民営含む）、まきば幼稚園は私立保育園（下線は新規開拓園）

※ 過去実施の ひまわりキッズガーデン城山・栄町保育園・志村さかした保育園・麦の子保育園・大山西町保育園・仲宿保育園・ほっぺるランド大谷口・さくらさくみらい中板橋・ソラスト成増保育園・第二たつのこ保育園・明日葉保育園 蓮根園・さくらさくみらい本町・白鳩保育園・さくら保育園・あすなろ保育園・さくらさくみらい新板橋・サンシティ聖母保育園・星樂保育園・やまと保育園は私立保育園、きよみ幼稚園は私立幼稚園、東京日仏国際学園は同年代を対象とした北区内の私立学校

※ 板橋区立弥生保育園は 2025 年 4 月より民営化されているが、2024 年度までは区立保育園として扱う。また、板橋区立板橋保育園は 2024 年 4 月より民営化されている。

- 小学校における取り組みは、7 校で計 23 回（うち 1 校、1 回があいキッズ）に及び、その対象者数は 920 人（うち 18 人があいキッズ）となった。今年度は寺子屋での指導はなかった。小学校での実践の内訳は以下の通り。

日付	学校名	対象（人数）	プログラム名	備考
05月15日	板橋区立志村第二小学校	3年1組（30人）	大豆ってすごいぞ	
05月17日	板橋区立志村第二小学校	3年3組（29人）	大豆ってすごいぞ	
05月20日	板橋区立志村第二小学校	3年2組（31人）	大豆ってすごいぞ	
07月01日	板橋区立板橋第一小学校	3年1組（25人）	大豆ってすごいぞ	
07月01日	板橋区立板橋第一小学校	3年3組（28人）	大豆ってすごいぞ	
07月03日	板橋区立板橋第一小学校	3年2組（28人）	大豆ってすごいぞ	
09月05日	板橋区立板橋第十小学校	1年生（117人）	そっとのぞいてみてみよう	
09月17日	板橋区立北前野小学校	6年1組（25人）	環境負荷の少ないエネルギー源を考えよう	
09月19日	板橋区立北前野小学校	6年2組（24人）	環境負荷の少ないエネルギー源を考えよう	
09月21日	板橋区立弥生小学校	1年生（47人）	季節の自然を感じよう	
09月26日	板橋区立板橋第十小学校	1年生①（58人）	どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ	
09月27日	板橋区立板橋第十小学校	1年生②（57人）	どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ	
10月10日	板橋区立板橋第十小学校	1年生（112人）	いも虫のたからぶくろ	
10月17日	板橋区立板橋第十小学校	2年生（103人）	そっとのぞいてみてみよう	
10月22日	板橋区立北前野小学校	6年1組（26人）	住み続けたい板橋のまちを考えよう	
10月25日	板橋区立北前野小学校	6年2組（23人）	住み続けたい板橋のまちを考えよう	
11月22日	板橋区立ときわ台小学校 あいキッズ	参加者（18人）	育てたわたで人形をつくろう	
01月21日	板橋区立板橋第一小学校	3年1組（29人）	学校産のとうふをつくろう	
01月23日	板橋区立板橋第一小学校	3年3組（29人）	学校産のとうふをつくろう	

02月04日	板橋区立板橋第一小学校	3年2組（28人）	学校産のとうふをつくろう
02月19日	板橋第六小学校	4年2組（27人）	学校の木を決めよう
02月26日	板橋第六小学校	4年1組（26人）	学校の木を決めよう

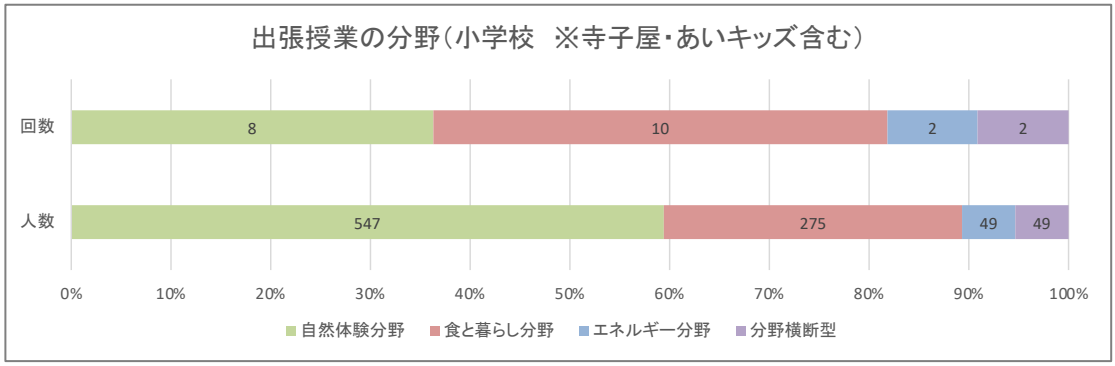
プログラムの内訳として、食と暮らし分野が回数としては 1 番多く、一方で学年単位での授業を行うことも多かった自然体験分野が人数としては 1 番多く実施された。

食と暮らし分野では、「大豆ってすごいぞ」を 6 回のほか、栽培した大豆を使った「学校産のとうふをつくろう」の授業を 3 回行った。その他、あいキッズで「育てたわたで人形をつくろう」を 1 回実施し、合計 10 回の授業を実施した。

自然体験分野では、「季節の自然を感じよう」「いも虫のたからぶくろ」「そっとのぞいてみてみよう」に加え、久々の実施となった「学校の木を決めよう」をあわせ、自然観察を行うプログラムが 6 回のほか、工作活動である「どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ」も 2 回行い、合計 8 回の実施となった。

自然エネルギー分野では、今年度は「風となかよし」の実施がなく、「環境負荷の少ないエネルギー源を考えよう」の 2 回のみの実施となった。

また、分野横断型プログラムとして、まちづくりプログラムである「住み続けたい板橋のまちを考えよう」が 2 回行われた。



小学校では、今年度板橋第十小学校で初めての授業を行い、対象となった小学校は計 6 校（あいキッズ 1 校を除く）であった。区内小学校に関して、これまでの活動を総合すると、47 校で授業を実践しており、その広がりは約 90%に至っている。

志村	志村第一	志村第二	志村第三	志村第四	志村第五
志村第六	前野	中台	舟渡	新河岸	富士見台
蓮根	蓮根第二	志村坂下	北前野	緑	若木
板橋第一	板橋第二	板橋第四	板橋第五	板橋第六	板橋第七
板橋第八	板橋第十	金沢	中根橋	加賀	上板橋
上板橋第二	上板橋第四	常盤台	桜川	弥生	大谷口
向原	赤塚	成増	赤塚新町	紅梅	北野
成増ヶ丘	下赤塚	徳丸	三園	高島第一	高島第二
高島第三	高島第五	高島第六	天津わかしお		

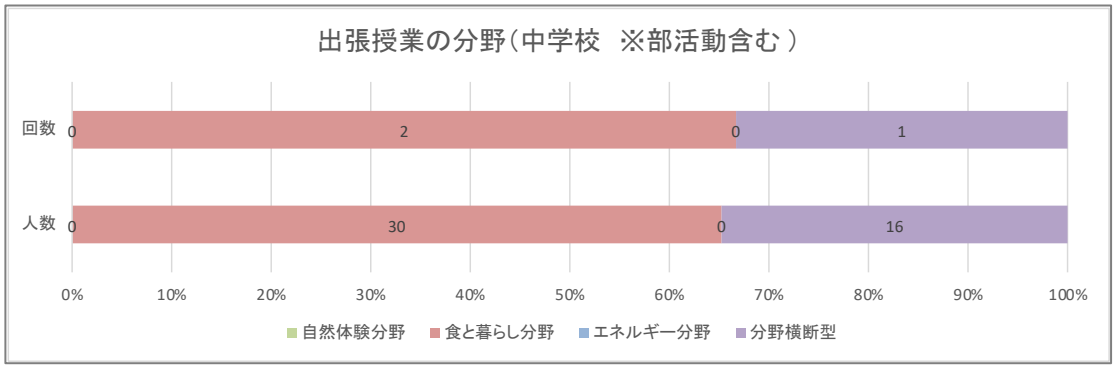
2024年度 実施	2024年度 新規開拓	過去の実施

※ 2024 年度実施のときわ台小学校は、あいキッズでの実践のため除外している。

- 中学校における取り組みは、2 校で計 3 回（うち 1 校、1 回が部活動）に及び、その対象者数は 46 人（うち 16 人が部活動）となった。中学校での実践の内訳は以下の通り。

日付	中学校名	対象（人数）	プログラム名	備考
06月15日	板橋区立高島第一中学校	特別支援学級（17人）	大豆ってすごいぞ	
12月12日	板橋区立高島第一中学校	特別支援学級（13人）	学校産のとうふをつくろう	
03月04日	板橋区立西台中学校	環境科学部（16人）	住み続けたい板橋のまちを考えよう	

プログラムの内訳は、特別支援学級を対象とした「大豆ってすごいぞ」「学校産のとうふをつくろう」で各 1 回のほか、部活動での「住み続けたい板橋の街を考えよう」で、学級・部活動の担任・生徒の要望に合わせたプログラム実践となった。



- 高等学校では、本年度、出張授業の取り組みは行わなかった。
- これらは、SOE のメンバーが中心になりながら、ボランティアに支えられて成り立っている。今年度は 53 回の活動で、延べ 228 人が参加した。1 回あたりの参加者は 4.3 人で、昨年と比べ増加した。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	**2024**
回数	5	23	10	28	34	41	31	23	30	20	55	49	51	51	38	56	59	**53**
スタッフ数	-	-	54	130	147	179	98	73	88	53	206	183	203	194	119	208	242	**228**
1回あたり	-	7.4？	5.4	4.6	4.3	4.4	3.2	3.2	2.9	2.7	3.7	3.7	4.0	3.8	3.1	3.7	4.1	**4.3**

A.1.4　周年事業 環境学習 1 日体験館

- センスオブアースが設立満 20 年を迎えたことを受けて、周年記念行事の一環で 10 月 13 日に「～たのしくあそんで地球がもっと好きになる日～ 環境学習 1 日体験館」を開催した。（後援：板橋区・板橋区教育委員会　協力：板橋区立エコポリスセンター・東京家政大学 人文学部 宮地孝宜ゼミ）

  体験活動としては、屋外活動を含む 9 の環境教育プログラムを体験できるブース等を用意した。メイン会場となったエコポリスセンターの環境研修室・環境工作室には延べ 455 人が来場し、多くの体験をしてもらうことができた。

  また、株式会社グリーンディスプレイの大塚淳一氏による実験教室・講演会「植物から生まれる電気で、光るぞ「ボタニカルライト」」も開催し、同伴者も含めて 100 名がボタニカルライトでの発電を実際に体験することができた。

  エコポリスセンター職員の協力を得て行ったビオトープ公開にも 105 名が参加するなど、限られた時間の中で多くの自然体験を味わってもらえる機会となった。

- 本活動は、体験活動企画運営ボランティアと一般ボランティアに支えられての活動となった。ボランティア MTG や企画会議での体験活動の企画や検証を経て、当日は 65 人のスタッフ（センスオブアース 21 人・体験活動企画運営ボランティア 16 人・一般ボランティア 28 人）が参加し、実際の体験活動を参加者に提供することができた。

A.2　環境教育指導者（主体）養成事業

A.2.1　環境教育ボランティア・インターンシップ

- ボランティアの募集に向けて、ボランティア募集サイト activo の有償版を利用し、20 名のインターネット上での申し込みがあった。その他の申し込み 2 名を含む 22 名のうち 7 名が実際の活動に参加した。WEB サービスを活用した数値のため、初回参加者の参加の比率についての評価は難しいが、より利用者のニーズに即した対応を心がけていく。また、継続参加に繋がる働きかけ、参加したボランティアスタッフの学びの機会の提供などにも力を入れていく必要がある。

	2024年									2025年			集計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
応募数	0	5	2	3	3	0	0	2	1	1	4	1	22	100.0%
（うちactivo対象事業）	0	3	2	3	3	0	0	2	1	1	3	1	19	
（うちactivoその他事業）											1		1	
（activo以外からの連絡）		2											2	
説明会参加		2		1	2			1		1			7	31.8%
ボランティア参加者数		1			2			1		1	2		7	19.4%
（うち複数回参加者数）		1						1		1			3	8.3%

A.2.2　地域主体の支援（プログラムの共同開発ほか）

- 大学のゼミ活動など、環境教育の地域における担い手を育成する事業を継続している。

A.2.3　教員養成・教員向けの講座

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

A.3　環境教育協働推進事業（環境教育ネットワーク構築活動）

A.3.1　環境教育協働実践

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

A.3.2　プログラムの共同開発

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

B　環境保全の事業

B.1　自然環境保全活動

B.1.1　ビオトープ保全活動

- 地球環境基金ひろげる助成に「ビオトープがつなぐ板橋の自然プロジェクト」が採択され、2024 年度から 3 年間助成を受けることとなった。活動概要は以下の通り。
「幼稚園・保育園・学校等において、地域の自然生態系を踏まえたビオトープづくりに取り組むことで、そこに通う子どもやその保護者、地域住人の地域の自然への興味関心を高めるとともに、ビオトープを通して定期的に自然との関わる中で、地域の自

然環境への親しみを育んでいく。」

本事業は、①学校ビオトープづくり・保全プログラムの開発・実践、②学校ビオトープサポーター制度の創設、③地域の自然環境への理解促進プログラムの 3 つで構成される。

- ①学校ビオトープづくり・保全プログラムの開発・実践では、環境教育プログラム研究会において、「ビオトープをつくろう」のプログラムの検討を行い、プログラムの資料等を作成した。
- ②学校ビオトープサポーター制度の創設では、保育園・幼稚園・学校等のビオトープ改修活動・保全活動などを支援するにあたり、ボランティアを募集した。

改修活動・保全活動としては、蓮根第二小学校・まきば幼稚園での活動を行ったほか、ほか複数の保育園や小中学校、高校等からの相談を受けている。

学校ビオトープサポーター制度としては、activo 等での募集により 7 人が登録し、5 回の活動に延べ 8 人が参加した。

	2024年									2025年			集計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
応募数							4	2	1	5	0	3	15	100.0%
（うちactivo対象事業）							4	1	1	5	0	2	13	
（うちactivoその他事業）								1					1	
（activo以外からの連絡）												1	1	
説明会参加							1	2	1	2		1	7	46.7%
初回参加者数								2		2		1	5	33.3%
（うち複数回参加者数）								2		1			3	20.0%

- ③地域の自然環境への理解促進プログラムでは、板橋の自然に関する学習会・観察会の開催を開催した。

7 月 30 日に開催した板橋の自然に関する学習会では、板橋区土木部みどりと公園課みどり計画係の西村直紘氏より「板橋区のみどりの現状」、いたばし野鳥クラブ代表の栗林菊夫氏より「板橋地域の鳥類を中心とした生きものの生態と拠点のネットワーク」、株式会社水研クリエイト社長の尾坂尚之氏より「板橋区におけるビオトープ創設の実績と、外から見た学校の生態系への影響等」について講演いただいた。学校関係者、一般市民など 22 人が参加した。

また、観察会「板橋の自然を訪ねる」を 2 回開催した。

11 月 30 日開催の「秋の板橋の自然を楽しむ!　浮間公園の水鳥と荒川生態園の生き物観察会」では、いたばし野鳥クラブ代表の栗林菊夫氏を講師として招き、浮間公園・荒川戸田橋緑地等の観察を行い、6 人が参加した。

3 月 8 日開催の「板橋の自然探索　アズマヒキガエルの観察会」では、東北大学大学院生命科学研究科の長谷和子氏を講師として招き、浮間公園でのカエルの観察と集会所でのヒキガエルの学習会を行い、27 名が参加した。

B.1.2　ごみ拾い活動

- 全国一斉水質検査に関して、今年度は該当の活動を実施しなかった。

B.1.3　緑地の保全・拡張に向けた活動

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

B.2　地産地消推進活動

B.2.1　栽培活動

- 柳が中心に大豆・棉の栽培を進め、収穫物を出張授業・イベントへと活用した。

B.3　自然エネルギー推進活動

B.3.1　自然エネルギー普及活動

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C　社会教育の事業

C.1　エコツアー事業

C.1.1　沖縄・備瀬エコツアー

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.1.2　三宅島エコツアー

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.2　自然観察会・各種環境講座

C.2.1　自然観察会

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.2.2　環境講座

- 前回開催に関わった「いたばし ECO フェスタ 2024～ユース環境活動発表会～」の次回の開催時期について、事業に関わるスタッフの状況を加味して、1 年延期とすることとなった。
- 【3.11 から未来をひらく会】について、会としては解散することとなり、今後は各団体の活動を相互に応援する形をとることとなった。

C.3　講師派遣による環境教育プログラム実践

C.3.1　児童館における環境教育プログラム実践

- 11 月 26 日に板橋区立はすのみ児童館において、親子向け講座を開催した。「どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ」を行い、親子 19 人が参加した。これらは、エコポリスセンターとの協働事業における地域エコロジーの枠組みで実施した。

C.3.2　社会教育施設等における環境教育プログラム実践

- 7 月 21 日に板橋区立東板橋図書館において、講座を開催した。「風となかよし（風力発電機をつくろう)」を行い、17 人が参加した。これらは、エコポリスセンターとの協働事業における地域エコロジーの枠組みで実施した。

C.3.3 その他団体等における環境教育プログラム実践

- 7 月 11 日に板橋区町会連合会蓮根支部女性部を対象とした講座を開催した。「プラスチックごみを減らそう」を行い、40 人が参加した。これらは、エコポリスセンターとの協働事業における地域エコロジーの枠組みで実施した。

C.4 各種イベント出展

C.4.1 イベント向けプログラム研究開発

- イベントのテーマや環境などを踏まえ、随時プログラムの準備を進めた。

C.4.2 外部イベント出展

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.4.3 板橋区協働イベント出展

- 5 月 12 日に板橋区（緑と公園課）主催のグリーンフェスタに出展。「風となかよし」のかざぐるま作りの体験のほか、メインステージにて「いも虫のたからぶくろ」の活動を行なった。
- 8 月 4 日にエコポリスセンターが主催する夏休みエコスクールに出展。「風となかよし～かざぐるまでピカっと光る電気をおこそう～」というタイトルで、かざぐるま作りと風力発電機作りを実施し、20 人が参加した。
- 2 月 1 日・2 月 2 日に環境なんでも見本市に出展。環境学習 1 日体験館の報告や、「綿から糸を紡ごう」の活動を行った。

C.5 板橋区指定管理者受託

C.5.1 板橋区立ボローニャこども絵本館管理業務委託

- 平成 30 年度をもって、委託事業は終了となった。

D まちづくりの事業

D.1 地域団体連携事業

D.1.1 地域環境団体との連携事業

- 板橋区を中心とした範囲で活動する環境団体との連携を進めるべく検討を行っている。

E 福祉の事業

E.1 福祉団体連携事業

E.1.1 地域福祉団体との連携事業

- 板橋区を中心とした範囲にある福祉団体と環境の分野での連携を進めるべく検討を行った。

F 学術・文化・芸術又はスポーツの振興事業

F.1 文化団体連携事業

F.1.1 地域文化団体との連携事業

- 板橋区を中心とした範囲で活動する文化団体やスポーツ団体との連携により、文化・スポーツと環境問題とのつながりを周知する活動を検討している。

G 団体運営業務

G.1 組織運営

G.1.1 一般管理

- 5 月に 2024 年度の年次総会を開催。活動報告・会計報告・活動方針・会計方針について報告し承認を得た。

G.1.2 理事・事務局関連

- 運営体制の強化に向けて、ニュース発行日に合わせて、月 1 回の頻度で理事会を開催した。理事を中心としたイベントの運営体制の確立や 20 周年に向けた活動の計画などを議論した。
- 事務局では、活動報告・会計報告に関して、書類を整理し報告にあたる。その他、運営・経理・広報などの事務局業務を随時行う。

G.1.3 会員関連

- 会員の呼びかけを進め、正会員数は 34 人、賛助会員数は 3 人となった。

G.1.4 記念活動

- SOE ニュース 200 号の発行並びに 2024 年度に迎える設立 20 周年を迎え、記念出版と周年記念イベントの開催に向け、企画・運営等を行った。

G.2 経理関係

G.2.1 一般会計

- NPO 法人会計基準協議会の定める NPO 法人会計基準に基づいた会計処理を実施した。

G.2.2 助成金・コンクール等申請関連

- 地球環境基金のひろげる助成に申請した「ビオトープがつなぐ板橋の自然プロジェクト」が採択され、1 年目の助成活動を行った。2 年目に向けても申請等を行った。

G.3 広報関連

G.3.1 ニュース発行関連

- 年間 8 回のニュース発行を実施。板橋区内の全保育園・小中学校や教育委員会・各種報道関係など、毎月約 4,500 部を発送した。今年度から SOE ニュースを印刷業者へ発注し、カラー印刷へと移行した。より鮮明に活動の様子を伝えられるようになった一方で、費用面の課題が残っている。
- 2022 年 9 月より SOE ニュースの PDF データを送付するメールニュースの配信を開始した。今後登録者数の増やし、リード層であるニュース読者の拡大を目指していく。
- ニュース発送作業を兼ねた定例のワークショップも継続的に実施した。8 回の活動で、延べ 65 人の参加があった。1 回あたりの参加者は 8.1 人となり、昨年の 6.8 人から増加した。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	**2024**
回数	-	-	17	14	18	22	22	17	13	13	11	11	11	9	10	11	11	**8**
スタッフ数	-	-	134	85	91	115	108	98	88	73	68	63	74	55	65	78	75	**65**
1回あたり	-	-	7.9	6.1	5.1	5.2	4.9	5.8	6.8	5.6	6.2	5.7	6.7	6.1	6.5	7.1	6.8	**8.1**

G.3.2 ホームページ関連

- オフィシャルサイトを定期的に更新し、イベントの案内や団体の周知を進めた。
- 特設ページ「SOE プログラムバンク」では環境教育のプログラムや資料などを発信した。
- Facebook ページに関しても、随時更新した。

G.3.3 団体紹介

- センスオブアースの活動紹介資料を随時改定した。

G.4 渉外関連

G.4.1 協働推進関係

- 2017 年度からのエコポリスセンターの指定管理者変更を受けて、新管理者の板橋エコみらいプロジェクトの担当者と環境教育の協働や運営に関する意見交換を行う。計 4 回行い、速やかで発展性のある協働での出張授業のスタイルを作り上げることができた。